小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。

本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

- ■本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。
- ■カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。 その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に 同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が 現在と異なる場合があります。

また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。 無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。 但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いい たします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を 負いません。

弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。 弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

以上

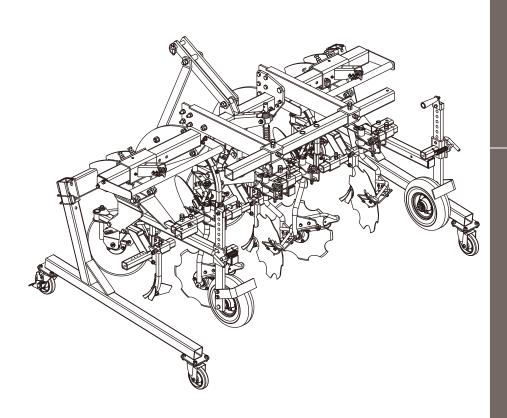
コバシ高速畝立てディスク

HDR200取扱説明書 お役立ちガイド

このたびは作業機をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

- 特に、「安全について」(→ p.4) は、必ずお読みいただき、 安全にお使いください。
- お読みになった後も、必ず作業機の近くに保管し、 いつでも読むことができるようにしてください。



KOBASH1

必ず読む▽

はじめに ▶ p.2

詳細目次 ▶ p.3

安全について

▶ p.4

使いかた▽

各部の名称

▶ p.13

開梱・組付け

▶ p.14

トラクタへの装着(標準3点リンク直装)

▶ p.15

移動・圃場への出入り ▶ p.20

作業のしかた **▶ p.21**

うね立て播種作業のしかた ▶ p.22

中耕培土作業のしかた ▶ p.29

保守・点検 ▶ p.35

消耗品一覧

p.43

格納・運搬・保管

▶ p.44

必要に応じて▼

主要諸元 ▶ p.45

トラクタ別装着表

▶ p.46

フロントウエイト装着表 ▶ p.48

異常診断一覧表 ▶ p.50

廃棄について/用語解説

▶ p.52

はじめに

作業機を操作する前にこの取扱説明書をよく読み、正しい取扱方法を理解してください。この取扱説明書は、 作業機の近くに保管して、操作手順に不安が生じたときにはいつでも読み返せるようにしてください。

使用目的・使用範囲

この作業機は大豆の畝立て播種・中耕培土用です。 ダイレクトで耕耘・重作業をすることは使用できません。

使用目的や適用トラクタ以外での作業や作業機・部 品の改造などは、決してしないでください。故障し た場合、保証の対象になりません。

取扱上の注意

- 当社は、以下のことを守らないで生じた損害 または傷害に対しては一切責任を負うことが できませんので厳守してください。
 - ・取扱説明書記載の指示事項を守ってください。
 - ・必ず適用トラクタで作業してください。
 - ・作業機・部品を改造しないでください。
 - ・操作・保守作業は、通常必要とされる注意 をして作業してください。
- 危険性に関する警告は、作業機の本体に貼り 付けた警告表示ラベル、およびこの取扱説明 書に記載してあります。
- この取扱説明書には、知り得る限りの危険性を記載しています。この取扱説明書に記載した警告や指示を守ってください。 また、これら以外にも事故防止対策に関して、十分な配慮が必要です。
- この取扱説明書は、日本語を母国語とする人を対象に作成されています。日本語を母国語としない人がこの作業機を取扱う場合は、必ずお使いになる方に安全指導を行ってください。
- この作業機は、アグリテクノサーチ(株)製 播種機 HUD-2(以降、播種機と記載)を装着 することで大豆の畝立て播種作業が可能とな ります。

貸出時および譲渡時の注意

- 作業機を譲渡または貸与する場合は、この取扱説明書を十分理解してから作業するように指導してください。また、この取扱説明書を作業機に添付してお渡しください。
- この作業機は国内での使用を前提としています。したがって、海外諸国の規格への適応は保証できません。また、海外諸国では使用言語が違うため、国外への持ち出し・転売はしないでください。

取扱説明書について

- この取扱説明書は、作業機の組み立て、操作、 および保守の方法を説明するものです。
- この取扱説明書の内容は作業機の改良のため、予告なく変更する場合があります。
- この作業機とこの取扱説明書の図とは異なることがあります。また、作業機内部の説明を容易にするため、図の一部を省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は著作権を当社が有します。 当社の事前の文書による同意無しに、この取 扱説明書の全体もしくは部分的にも複写、翻 訳しないでください。また、読み取り可能な、 どのような電子装置や機械にも転写しないで ください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い求めの販売店にご注文ください。
- この取扱説明書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。
- さらに詳しい情報が必要となる場合や、ご質問などがある場合、または内容につき不明な点がありましたらお買い求めの販売店へお問い合せください。

詳細目次

はじめに ・・・・・・・ 2
詳細目次 · · · · · · 3
安全について ・・・・・・・ 4
警告表示について ・・・・・・・・・・4
安全に作業するために ・・・・・・・4
道路走行時の注意・・・・・・10
警告表示ラベルと機番プレート · · · · · · · · 11 サービスと保証 · · · · · · · 12
各部の名称 ・・・・・・ 13
本体 · · · · · 13
開梱・組付け ・・・・・・ 14
トラクタへの装着
(標準 3 点リンク直装) ・・・・・・・・・・・ 15
注意事項15
装着前の準備・・・・・・16
トラクタへの装着・・・・・・・17
装着後のトラクタとの調整 ・・・・・・・18トラクタからの取外し ・・・・・・19
フロントウエイトの取外し19
移動・圃場への出入り ・・・・・・ 20
移動・圃場への出入り ······ 20 注意事項 ····· 20
注意事項 · · · · · · 20
注意事項 ·······20 作業のしかた ······21
注意事項20作業のしかた21注意事項21うね立て播種作業のしかた22作業準備22
注意事項20作業のしかた21注意事項21うね立て播種作業のしかた22作業準備22作業手順22
注意事項20作業のしかた21注意事項21うね立て播種作業のしかた22作業準備22作業手順22作業姿勢の調整23
注意事項20作業のしかた21注意事項21うね立て播種作業のしかた22作業準備22作業手順22作業姿勢の調整23耕深の調整23
注意事項20作業のしかた21注意事項21うね立て播種作業のしかた22作業準備22作業手順22作業姿勢の調整23耕深の調整23作業速度の調整23
注意事項20作業のしかた21注意事項21うね立て播種作業のしかた22作業準備22作業手順22作業姿勢の調整23耕深の調整23
注意事項20作業のしかた21注意事項21うね立て播種作業のしかた22作業準備22作業手順22作業姿勢の調整23耕深の調整23作業速度の調整23条間の調整24
注意事項20作業のしかた21注意事項21うね立て播種作業のしかた22作業準備22作業手順22作業姿勢の調整23耕深の調整23株業速度の調整23条間の調整23条間の調整24うね高さの調整24コンプレッションスプリングの調整27中耕培土作業のしかた29
注意事項20作業のしかた21注意事項21うね立て播種作業のしかた22作業準備22作業手順22作業姿勢の調整23耕深の調整23株意度の調整23条間の調整23条間の調整24うね高さの調整24つンプレッションスプリングの調整27中耕培土作業のしかた29作業手順29
注意事項20作業のしかた21注意事項21うね立て播種作業のしかた22作業準備22作業手順22作業姿勢の調整23耕深の調整23株業速度の調整23条間の調整23名間を24うね高さの調整24つね高さの調整26コンプレッションスプリングの調整27中耕培土作業のしかた29作業手順29作業多の調整29
注意事項20作業のしかた21注意事項21うね立て播種作業のしかた22作業準備22作業手順22作業姿勢の調整23耕深の調整23未間の調整23条間の調整23名間整24うね高さの調整26コンプレッションスプリングの調整27中耕培土作業のしかた29作業子順29作業姿勢の調整29耕深の調整29耕深の調整29
注意事項20作業のしかた21注意事項21うね立て播種作業のしかた22作業準備22作業手順22作業姿勢の調整23耕深の調整23条間の調整23条間の調整24うね高さの調整24うね高さの調整26コンプレッションスプリングの調整27中耕培土作業のしかた29作業子勢の調整29株深の調整29株深の調整29作業速度の調整29作業速度の調整29作業速度の調整29
注意事項20作業のしかた21注意事項21うね立て播種作業のしかた22作業準備22作業手順22作業姿勢の調整23耕深の調整23未間の調整23条間の調整23名間整24うね高さの調整26コンプレッションスプリングの調整27中耕培土作業のしかた29作業子順29作業姿勢の調整29耕深の調整29耕深の調整29

保守・点検・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
注意事項 · · · · · · · · 35
保守・点検の準備・・・・・・・・・・35
保守・点検一覧表 · · · · · · · · · 36 作業内容 · · · · · · · · · 37
消耗品一覧 · · · · · · 43
格納・運搬・保管・・・・・・・・・ 44
注意事項 · · · · · · · 44
保管・格納・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
作業手順・・・・・・・・・・・・・・・・・44
主要諸元 · · · · · · · 45
トラクタ別装着表 ・・・・・・ 46
フロントウエイト装着表 ・・・・・・ 48
異常診断一覧表 · · · · · · 50
廃棄について ・・・・・・ 52
注意事項 · · · · · · · · 52
用語解説 ・・・・・・ 52

安全について

ここに示した注意事項は、作業機を安全に正しく使用していただき、使用者や他の方々への危害や財産への損 害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

警告表示について

警告レベルの定義

誤った取扱いをすると、生じることが想定される内 容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示する ために、「危険」、「警告」、「注意」に区分して記載 しています。

誤った取扱いをしたときは、死亡、 ⚠ 危 険 後遺症などの大きな被害の可能性 が高いことを意味します。 誤った取扱いをしたときは、死亡、 ⚠ 警告 後遺症などの大きな被害を負う恐 れがあることを意味します。 誤った取扱いをしたときは、軽 ⚠ 注 意 度の傷害が発生する可能性があ ることを意味します。

その他の表示

上記以外の表示は、次のとおりです。

取扱上の注意	誤った取扱いをしたときは、作業機が故障する可能性があることを意味します。					
お知らせ)	作業機本来の能力が発揮できないこと、あるいは、特に知っておいていただきたいことを意味します。					

絵表示

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使っ て表しています。



禁止(してはいけないこと)を示します。



強制(すること)を示します。



注意を示します。

安全に作業するために

全般

危险



使用目的以外の作業や作業機・ 部品の改造をしないでくださ



* 事故・大ケガ・故障につながる 恐れがあります。



取扱説明書はいつでも読むこと ができるように、作業機と一緒 _{必ず実行} に大切に保管してください。



* 事故・大ケガ・故障につながる 恐れがあります。



取扱説明書をよく読み、作業機・ 部品の使いかたを理解してから _{必ず実行}使用してください。

トラクタの『取扱説明書』も併



せてよく読んでください。 * 事故・大ケガ・故障につながる



恐れがあります。 操作、作動しているときは周り の人はもちろん、本人も作業機



_{必ず実行} から離れ、かつ周囲との距離が 十分ある状態で行ってくださ



* 作業機に挟まれ、事故・大ケ ガ・故障につながる恐れがあり ます。



故障・異常に気付いたら、直ち に作業を中止し、修理してから _{必ず実行}使用してください。



* 事故・大ケガにつながる恐れが あります。

企警告



適応トラクタ以外には装着しな いでください。

主要諸元表を熟読の上、適応馬 力内のトラクタに装着してくだ さい。



* 特にトラクタ馬力が小さい場合、 トラクタとの重量バランスが悪 くなり、事故・大ケガにつなが る恐れがあります。



次のような状態では、運転しな いでください。

- 飲酒運転
- いねむり運転
- 病気や薬物の作用で正常な運 転ができないとき







作業機の操作に熟練し、必要な 運転免許証を携帯し、心身とも に健康な状態で運転してくださ

* 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



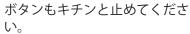
作業機を他人に貸出す場合は、 取扱説明書も添付し正しい取扱 _{必ず実行}いを指導してください。

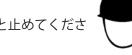


* 事故・大ケガ・故障につながる 恐れがあります。



作業中の服装は、ヘルメット、 丈夫な手袋、すべらない靴、キ _{必ず実行} チンとした作業服を着用してく ださい。





* 回転部分に巻込まれ、事故・大 ケガにつながる恐れがありま す。



⚠ 注 意



共同作業者がある場合は、動作 ごとに合図を徹底してくださ



* 作業機が急に動き、事故・ケガ につながる恐れがあります。

作業前点検

介注意



各部のボルト、ナットなどの緩 みや、ピンの脱落がないか確認 必ず実行してください。



* 事故・ケガ・故障につながる恐 れがあります。

トラクタへの着脱

⚠警告



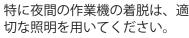
トラクタと作業機の着脱の際 は、いつでも逃げられる安全な _{必ず実行} 態勢で操作し、トラクタは必ず ブレーキで止めてください。



* 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



作業機の着脱・調整は、平坦で 十分な広さがあり地盤のしっか _{必ず実行}りした場所で行ってください。





* 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



取付け各部のトメピンがすべて 確実に装着されているか確認し _{必ず実行} てください。



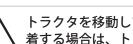
* 事故・大ケガ・故障につながる 恐れがあります。



作業機の着脱は、基本的に1人 で作業を行ってください。



必ず実行 * 作業機が急に動き、事故・大ケ ガにつながる恐れがあります。





トラクタを移動して作業機を装 着する場合は、トラクタと作業 機の間に人が入らないように注 意してください。



* 事故・ケガにつながる恐れがあ ります。

⚠注意



2人以上で着脱を行う場合は、 お互いに合図を徹底してくださ

必ず実行 い。

* 作業機が急に動き、事故・ケガ につながる恐れがあります。



トラクタへの装着

危険



作業機とトラクタとの重量バラ ンスを確認してください。

- 必ず実行・トラクタの前輪に最低限 20 % 以上のウエイトがかかるよ うに、フロントウエイトを取 付けてください。
 - ・ 作業機に泥が付着して重くな る場合があるため、泥を取除 いてください。



- アタッチメントなどを取付け て使用する場合も、バランス を確認しフロントウエイトを 取付けてください。
- * 事故・大ケガにつながる恐れが あります。 作業機を装着すると、重量バラ ンスが変わります。



播種機取付け時の重量バランス を確認してください。

必ず実行 * 転倒などし事故・大ケガにつな がる恐れがあります。

⚠注意



作業機に他のアタッチメントを 取付ける場合は、事前に必ずア _{必ず実行} タッチメントの『**取扱説明書**』 をよく読んでください。



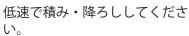
* 事故・ケガ・故障につながる恐 れがあります。

トラックへの積み・降ろし

危険



途中でクラッチを切ったり、変 速を中立にしたりしないでくだ さい。

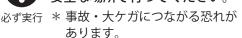




* 転倒などし事故・大ケガにつな がる恐れがあります。



積み・降ろしの場所は、平坦で 安全な場所で行ってください。





アユミ板は、滑り止めの付いて いる丈夫なものを使用してくだ _{必ず実行} さい。

確実に固定し、傾斜角度、平行 度を確認してください。



* 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



積み・降ろしの際は、トラック が移動しないようしっかりとサ _{必ず実行} イドブレーキをかけてくださ い。



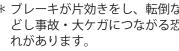
* 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



トラクタの左右のブレーキペダ ルを連結し、脱輪しないように _{必ず実行}してください。



* ブレーキが片効きをし、転倒な どし事故・大ケガにつながる恐





作業機を装着しての積み・降ろ しは、泥の付着などがあるため 注意してください。





* 事故・大ケガにつながる恐れが あります。

-般走行

⚠ 危 険



高速運転、急発進、急ブレーキ、 急旋回をしないでください。

* 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



周囲の人やものに注意して旋回 してください。



必ず実行 *事故・大ケガにつながる恐れが あります。

⚠警告



トラクタ・作業機には、運転者 以外の人を乗せないでくださ い。



* 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



路上移動時は播種機の中身(種 子)を入れないでください。

* 転倒などし事故・大ケガにつな がる恐れがあります。



走行するときは次のことを守っ てください。

- 必ず実行・ 左右のブレーキペダルを連結 すること
 - ・ 作業機の回転を止めること



- ・ 作業機の落下速度調節レバー を締めて、必ず油圧ロックを すること
- * 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



坂道での走行は次のことを守っ てください。

- 必ず実行・ クラッチを切ったり、変速を 中立にしたりしないこと
 - ・スピードを落とし、低速で走 行すること



- エンジンブレーキを使用し、 急ブレーキをかけないこと
- * 事故・大ケガにつながる恐れが あります。

⚠ 警告



播種機装着時はゆっくりと走行 してください。

必ず実行 * 転倒などし事故・大ケガにつな がる恐れがあります。



作業機は左右がトラクタの機体 幅より広いため、走行時は注意 してください。

注意

- ・移動時は、作業機の折りたた める箇所は折りたたみ走行し てください。
- キャスタスタンドが付いてい る場合は必ず取外してくださ
- * 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



介注意



路肩に草が茂っている場所を走 行するときは、路肩の強度に注

注意

意してください。 * 事故・ケガにつながる恐れがあ ります。



圃場への出入り

⚠ 警告



圃場に入るときは、必ず前進で 速度を下げて、うねや段差に対 _{必ず実行} して直角に進んでください。



* 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



圃場の出口が傾斜している場合 は、バックして上がるか、また _{必ず実行} は丈夫なアユミ板を使用してく ださい。



* 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



畦や段差に対しては、作業機を 低くして重心を下げ、直角に進 _{必ず実行}んでください。

* 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



作業中

危险



いねむり運転、わき見運転をし ないようにあらかじめ体調を整 _{必ず実行}えてください。



* 事故・大ケガにつながる恐れが あります。

⚠警告



作業機の下にもぐったり、足を ふみこんだりしないでくださ



* 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



作業中は、周りに人を近寄らせ ないでください。

- ・ 特に子供には十分注意するこ
- ・ 補助作業者がいる場合は、動 作ごとに合図をかわすこと。
- * 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



禁止

回転部分など、動くところには 触れないでください。



* 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



次の作業をする場合は、必ずト ラクタの駐車ブレーキをかけ、 置にし、エンジンを停止してく ださい。



- 運転者が運転位置を離れて作 業機を調整するとき
- ディスクなどへ付着した土を 取除くとき
- * 事故・大ケガにつながる恐れが あります。

企警告



次の場所を作業する場合は、ト ラクタの車速を低速にしてくだ _{必ず実行} さい。

- 畦際、土手際
- 木や障害物の近く
- * 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



注意



作業中は草やゴミを路上に落と さないでください。

* 道路交通法違反や事故につなが る恐れがあります。



旋回しながらの作業はしないで ください。

* 転倒事故・作業機の故障につな がる恐れがあります。



後進作業はしないでください。

* 事故・作業機の故障につながる 恐れがあります。

(取扱上の注意)

• ぬかるみにはまっても作業機は絶対に外さない

牽引点を低くし、他の車に引き上げてもらって ください。

故障につながる恐れがあります。

作業中の点検

⚠ 警 告



作業機の点検を行うときは以下 のことを確認してから作業して 必ず実行ください。

- トラクタの駐車ブレーキをか けている
- PTO 変速レバーが中立になっ ている



- エンジンが停止している
- トラクタのキーを抜いている
- 油圧ロックを行っている
- * 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



点検のために外したカバー類 は、必ず元通りに取付けてくだ



* 事故・大ケガにつながる恐れが あります。

⚠ 注 意



ラジエータやマフラには触れな いでください。



* 火傷をする恐れがあります。



点検整備に必要な工具類は、適 切な管理を行い、正しく使用し _{必ず実行} てください。



* 整備不良で事故につながる恐れ があります。

トラクタ停車

⚠ 警 告



傾斜に止める場合は、タイヤに 必ず車止めをしてください。



● 必ず実行 *事故・大ケガにつながる恐れが あります。

⚠ 注 意



平らな場所に止め、作業機を降 ろしてエンジンを止め、駐車ブ レーキをかけてください。



* 事故・ケガにつながる恐れがあ ります。

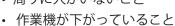
その他

⚠警告



トラクタのエンジン始動時は以 下のことを確認してください。

必ず実行・ 周りに人がいないこと





* 作業機が不意に下がり、事故・ 大ケガにつながる恐れがありま



作業機をキャスタスタンドで自 立させた状態で、播種機を装着 しないでください。



* 作業機が転倒し、事故・大ケガ につながる恐れがあります。



キャスタスタンドで自立させた 状態で播種機の取付け・取外し をしないでください。



* 作業機が転倒し、事故・大ケガ につながる恐れがあります。



播種機を取付けた状態で作業機 をキャスタスタンドで自立させ ないでください。



* 作業機が転倒し、事故・大ケガ につながる恐れがあります。



道路走行時の注意

運転免許について

特定小型特殊自動車(全幅 1.7m 以下、全高 2.0m 以下、全長 4.7m 以下、かつ最高速度 15km/h 以下 のトラクタ) であっても、作業機を装着した場合に 何れかの寸法を超えるときは、大型特殊自動車の運 転免許(『農耕用に限る』を含む)を取得している 必要があります。

作業機について

トラクタに作業機を装着して道路走行する場合は、 道路運送車両法の保安基準を満たしていなければな りません。

トラクタと作業機の組合せで保安基準を満たす処置 を行うことで道路走行できるようになります。 詳細内容については一般社団法人日本農業機械工業 会ホームページに掲載の『作業機付きトラクタの公 道走行ガイドブック』を参照してください。

※ 一般計団法人

日本農業機械工業会ホームページアドレス http://www.jfmma.or.jp/

より詳しい情報を必要とする場合や、ご質問がある 場合は、お買い求めの販売店へお問い合せください。 特に反射ラベルなどの法律で表示義務のあるものは 道路走行する前に運行前点検を行い、汚損や破損し ていれば必ず表示内容が他の車両や歩行者から確認 できるように処置してください。

トラックでの運搬

⚠ 危 険



作業機をトラックで運搬する際 は折りたためる箇所は折りたた _{必ず実行} んでください。また、作業機が 動かないように強度が十分ある ロープで確実に固定してくださ



* 事故・大ケガにつながる恐れが あります。



積み・降ろしの際、落下防止措 置を行ってください。

必ず実行 * トラックのあおりを不用意に開 けると作業機が滑り落ち、事故・ 大ケガにつながる恐れがありま





作業機をトラックで運搬する際 はキャスタスタンドを取外し、 台に接地させてください。

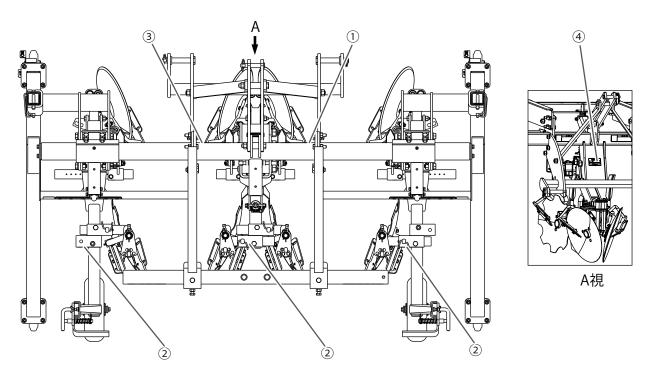


* 作業機が転倒し、事故・大ケガ につながる恐れがあります。

警告表示ラベルと機番プレート

この作業機には、警告表示ラベルを貼って注意喚起しています。よくお読みになって、理解した上で作業してください。また、機番プレートについてはアフターサービスのときに参照してください。(「サービスと保証」 $(\rightarrow p.12)$)

- ・いつも汚れや泥をとり警告表示ラベルがハッキリと見えるようにしてください。
- ・警告表示ラベルが損傷や破損したときは、新しいものと交換してください。
- 警告表示ラベルを貼ってある部品を交換したときは、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に警告表示ラベルを貼ってください。





サービスと保証

保証書

この作業機には保証書を添付しています。保証書は お客様が保証修理を受けられる際に必要となるもの です。保証内容は保証書をご覧ください。お読みに なった後は大切に保管してください。

アフターサービス

作業機の調子が悪いときに点検、処置してもなお不 具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い 求めの販売店まで連絡してください。

- お客様名
- 作業機の型式と製造番号 (「警告表示ラベルと機番プレート」(→p.11))
- 使用状況(作業速度はいくらで、どんな作業を していたときに)
- どのくらい使用したか(約○○アール・約○○ 時間使用後)
- 不具合が発生したときの状況(できるだけ詳し <)

補修用部品の供給年限

この作業機の補修用部品の供給年限(期間)は、製 造打切り後9年といたします。

したがって、その後のご注文に対しては、在庫限り の供給とさせていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品 をお買い求めください。

市販類似品をお使いになりますと、作業機の不調や 作業機の寿命を短くする原因になります。

また、部品の改造はしないでください。

型式について

お買い上げいただいた作業機の型式名を保証書と機 番プレートで確認し、該当箇所をお読みください。

アタッチメントについて

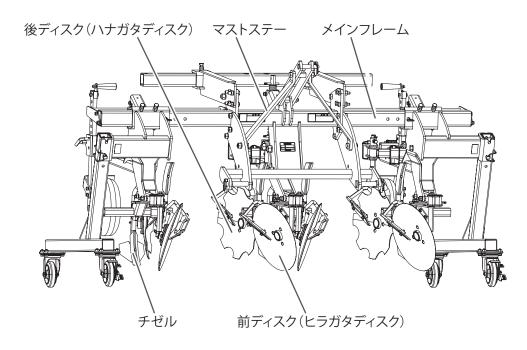
作業機に装着されたアッタッチメントの調子が悪い 場合は、お買い求めの販売店へお問い合せください。

各部の名称

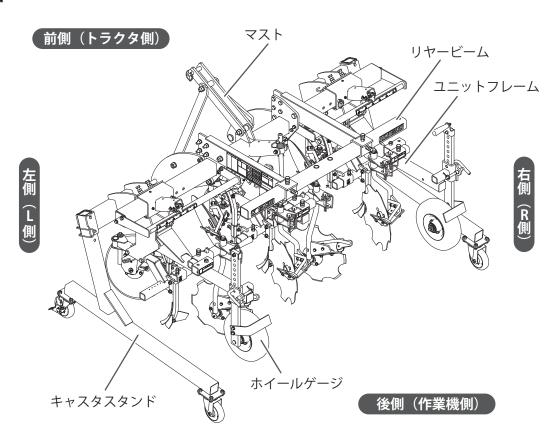
作業機本体の各部の名称と前後左右の定義について記載しています。

本体

■前面(トラクタとの接続側)



■背面



開梱・組付け

作業機は鉄枠梱包されています。別冊の『開梱・組付け要領書』に従って開梱・組付けしてください。

トラクタへの装着(標準3点リンク直装)

トラクタへの装着と取外しについて記載しています。

⚠警告



平坦で十分な広さがあり、地盤のしっか りした場所で行ってください。

必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



キャスタスタンドを着脱する際は、トラ クタのエンジンを停止し、作業機を持ち $_{
m Normalize T}^{-}$ 上げ、油圧ロックし、落下防止をしてか ら行ってください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



作業機の着脱は、基本的に1人で作業を 行ってください。

必ず実行 * 作業機が急に動き、事故・大ケガにつな がる恐れがあります。



トラクタを移動して作業機を装着する場 合は、トラクタと作業機の間に人が入ら ないように注意してください。

* 事故・ケガにつながる恐れがあります。

企注意



キャスタスタンドは、圃場内での使用や 圃場内への放置はしないでください。

* 泥の浸入により回動しにくくなることが あります。泥が浸入して回動しにくくなっ た場合は、よく洗浄してグリスを塗布し てください。



2人以上で着脱を行う場合は、お互いに 合図を徹底してください。

必ず実行 * 作業機が急に動き、事故・ケガにつなが る恐れがあります。



夜間の場合は適切な照明を用いてくださ

必ず実行 * 事故・ケガにつながる恐れがあります。



トラクタメーカーの純正ウエイトを取付 けてください。

必ず実行 トラクタ型式や着脱方式によりフロント ウエイトが必要になります。

* 事故・ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注 意



キャスタスタンドで作業機を移動する際 は、平坦な広い場所で、周囲に人がいな _{必ず実行} いことを確認し、足元に注意して行って ください。

* ケガにつながる恐れがあります。



キャスタやキャスタスタンドが損傷した 場合は、直ちに修理・交換を行ってくだ _{必ず実行} さい。

* 事故・ケガにつながる恐れがあります。



キャスタで無理に段差を越えないでくだ さい。

必ず実行 * 作業機が損傷し、事故・ケガにつながる 恐れがあります。

(取扱上の注意)

- トラクタにより、装着手順が異なります。
- お手持ちのトラクタと純正ロータリの『取扱説明 書』に従って装着してください。
- 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、 トラクタと作業機が干渉しないか確認してくださ

特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面 のガラスを割らないように注意してください。

トラクタによっては、スイッチひとつで自動で 最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手 動で干渉の有無を確認してから使用してくださ

また、作業機が勢いよく上がるため、10 cm 以 上の余裕を持って上げ規制をしてください。

- ・ 水平制御装置付トラクタの場合は、作業機を持 ち上げた際、手動で左右に傾けてトラクタと作 業機が干渉しないことを確認してください。(操 作方法はトラクタの『取扱説明書』をご覧くだ さい。)
- 移動時に急ブレーキをかけた場合、反動で作業 機が上がりトラクタに接触することがあるので 注意してください。

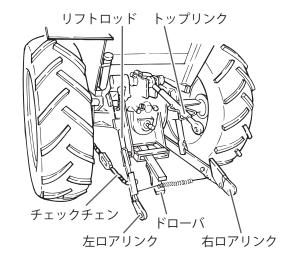
- キャビン付きトラクタのリヤーガラスを開けた まま作業機を上げたり、開閉操作を行ったりし ないでください。
- 作業機を急激に落下させないでください。破損 の原因になります。
- ・ハンドルが接触する場合は、接触しない位置に 動かしてください。
- トップリンクやロアリンクの取付け位置、およ びリフトロッドやトップリンクの長さを変えた 場合にも、干渉の有無を確認してください。
- 推奨外の条件で使用しないでください。作業機 が持つ本来の性能を発揮できないだけでなく、 作業機が破損する恐れがあります。使用条件を 守り、正しい使いかたをしてください。

装着前の準備

トラクタの準備

この作業機の装着方法は、標準3点リンク直装です。 ドローバが作業機に干渉する場合は、ドローバの位 置を変えるか、取外してください。

取付け位置は、「トラクタ別装着表」(→p.46)を 参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を 確認し、取付けてください。



トラクタへの装着

トラクタへの装着

⚠ 警告



装着作業中、トラクタを止めるときはそ の都度エンジンを切り、駐車ブレーキを _{必ず実行}かけてください。

> *トラクタと作業機に挟まれ、事故・大ケ ガにつながる恐れがあります。

1 作業機をトラクタに取付けます。

- (1) トラクタの PTO の変速をニュートラルにしま す。
- (2) ロアリンクを下げます。
- (3) トラクタをゆっくりバックさせ、作業機に近づ けます。

(取扱上の注意)

- トラクタと作業機が直角になるようにしてくだ。 さい。
- 2 作業機のヒッチブラケットをトラクタのロ アリンクに取付けます。
 - リンチピンで抜け止めをしてください。
- 3 作業機のマストにトップリンクを取付けま す。

⚠注意



トップリンク取付け後は、各ピン部の抜 け止めがされているか確認してください。

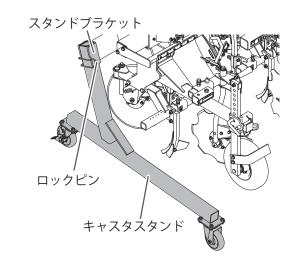
必ず実行 * 作業機が脱落し、事故・ケガにつながる 恐れがあります。

リンチピン(またはRピン)で抜け止めをして ください。トップリンクとリンチピン(または Rピン)はトラクタ付属品を使用してください。

(取扱上の注意)

・トップリンクは目安の長さです。作業時に再度 水平を確認し調整を行ってください。

- 4 ポジションコントロールレバーを「上げる」 にし、作業機をゆっくりとリフトアップし ます。
- 5 キャスタスタンドを取外します。
 - (1) 作業機両側のスタンドブラケットのロックピン を取外し、キャスタスタンドを取外します。



(2) 取外した後は、作業機をゆっくり上下させ、干 渉などの確認をします。

装着後のトラクタとの調整

チェックチェンの調整

左右の横振れを確認し、必要に応じてチェックチェ ンを調整してください。

- 1 作業機を持ち上げた状態で、作業機の中心 とトラクタの PTO 軸を後方より見て直線上 に合せます。
- 2 左右の横振れが 10 mm 以内になっているこ とを確認します。
 - 10 mm を超える場合は、10 mm 以内になるよ うに左右均等にチェックチェンを張ります。

リフトロッドの調整

左右の水平を確認し、必要に応じてリフトロッドを 調整してください。

- 1 作業機を持ち上げ、後方より見て左右が水 平になるようにします。
- 2 トラクタの油圧水平スイッチを操作し、リ フトロッドを調整します。
 - ・油圧水平スイッチがない場合は、リフトロッド を回して調整します。

トップリンクの調整

トップリンクの長さは、「トラクタ別装着表」 (→ p.46) を参照して調整してください。 後ほど作業中に微調整を行います。

♠ 警告



トップリンクの調整は、作業機を接地さ せてから行ってください。

必ず実行 *トップリンクが抜けて、作業機が落下し、 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

前後の傾きを確認し、必要に応じてトップリンクを 調整してください。

フロントウエイトの装着

トラクタ型式や装着方式によりフロントウエイトが 必要になります。

危険

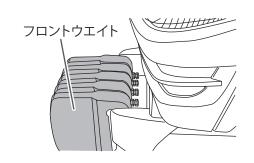


作業機とトラクタとの重量バランスを確 認してください。

- 必ず実行・トラクタの前輪に最低限20%以上の ウエイトがかかるように、フロントウ エイトを取付けてください。
 - 作業機に泥が付着して重くなる場合が あるため、泥を取除いてください。
 - * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。 作業機を装着すると、重量バランスが変 わります。

「フロントウエイト装着表」(→ p.48) を参考にし て装着してください。

記載されていないトラクタについては、お買い求め の販売店に相談してください。



トラクタからの取外し

⚠ 警告

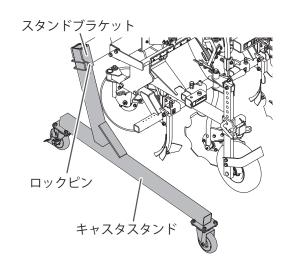


作業機を取外す場合は、平坦で地盤の しっかりした場所で、取外しのためのス ペースが十分にとれる場所で行ってくだ さい。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

1 キャスタスタンドを取付けます。

- (1) 作業機を持ち上げます。
- (2) キャスタスタンドを作業機両側のスタンドブラケットに取付け、ロックピンで固定します。



2 作業機を下げます。

- (1) ポジションコントロールレバーを「下げる」に します。
- (2) 作業機を下げ、接地させます。

(取扱上の注意)

・作業機を急激に落下させないでください。破損 の原因になります。

3 トップリンクを取外します。

- (1) 作業機が安定するまでトップリンクの長さを調整します。
- (2) トップリンクに力がかからなくなったところで トップリンクピンを取外します。

4 作業機をトラクタから取外します。

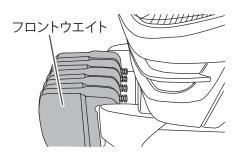
- (1) ポジションコントロールレバーを「下げる」に します。
- (2) リンチピンを取外し、作業機のヒッチブラケットからロアリンクを取外します。
 - ・ 外れない場合は、場所が平坦でないなどの原因 があります。動作をやり直してください。

取扱上の注意

トップリンクを外した状態で、作業機を大きく 上下させないでください。作業機が転倒する恐れがあります。

フロントウエイトの取外し

作業前に取付けたフロントウエイトを取外してくだ さい。



移動・圃場への出入り

移動・圃場への出入りについての注意事項を記載しています。 よく読み、内容を理解してから作業を行ってください。

注意事項

危険



トラックへの積み込み、坂の上り時に、 トラクタの前輪が浮き上がる場合は、フ ロントウエイトを付けて作業機を下げて 登ってください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



圃場に入るときは、必ず前進で速度を下 げて、畦や段差に対して直角に進んでく ださい。

畦が高いときは、丈夫で滑り止めのある アユミ板を使用し、傾斜角が 14°以下に なるようにしてください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 警告



路肩を目視できない場合や軟弱な路肩は 走行しないでください。

* 転倒事故につながる恐れがあります。



溝や傾斜のある農道は路肩に注意して走 行してください。

* 転倒事故につながる恐れがあります。 必ず実行



必ず実行

移動の際は作業機を持ち上げ、油圧ロッ クをし、左右のブレーキを連結し、チェッ クチェンが張れていることを確認してく ださい。

* 転倒事故につながる恐れがあります。



トラクタの『取扱説明書』に沿って走行 してください。

* 転倒事故につながる恐れがあります。 必ず実行



前後左右に気をくばり、安全を確認しな がら走行してください。

_{必ず実行} 高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回 はしないでください。

* 転倒事故につながる恐れがあります。

⚠ 注 意



傾斜している圃場から出るときは、バッ クで上がるか、丈夫なアユミ板を使用し てください。

* 転倒事故につながる恐れがあります。

/ 注意



作業機を低くして重心を下げ、直角に進 んでください。

必ず実行 * 畦や段差に対して斜めの方向に進むと、 横滑りや転倒する恐れがあります。



常に前・後輪のバランスを考え、移動、 圃場への出入りに注意してトラクタ操作 をしてください。

* 転倒事故につながる恐れがあります。



移動時はトラクタの PTO 変速レバーを 「中立」、「切」にして走行してください。

* 巻込み事故につながる恐れがあります。

作業のしかた

作業のしかたについて記載しています。

作業前によく読み、内容を理解してから作業をしてください。

⚠ 危 険



運転中トラクタと作業機の周囲には、補 助作業者や他の人を絶対に近づけないで ください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



次の作業をする場合は、必ずトラクタの 駐車ブレーキをかけ、PTO 変速レバーを 「中立」の位置にし、エンジンを停止し てください。

- 運転者が運転位置を離れて作業機を調 整するとき
- 草やワラのからみ付きを取除くとき
- * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



トラクタが水平に走行できる場所で作業 をしてください。

必ず実行 * 転倒事故につながる恐れがあります。



次の場所を作業する場合は、トラクタの 車速を低速にしてください。

- 必ず実行 ・ 畦際、土手際
 - 木や障害物の近く
 - * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



路肩が目視でき、強固で崩れないことを 確認して作業を行ってください。

必ず実行 * 転倒事故につながる恐れがあります。

企警告



作業機を大きく上げた状態で作業をしな いでください。

* 事故・大ケガ、作業機の損傷につながる 恐れがあります。



石や木に接触した場合や、異常な振動・ 異音を感じた場合は、直ちに作業をやめ _{必ず実行} て作業機の点検をしてください。

> * 事故・大ケガ、作業機の損傷につながる 恐れがあります。

⚠ 注 意



石などが多い圃場では作業を行わないで ください。

* ケガやトラクタ、作業機の損傷につなが る恐れがあります。



作業中は草やゴミを路上に落とさないで ください。

* 道路交通法違反や事故につながる恐れが あります。



旋回しながらの作業はしないでくださ

禁止

* 転倒事故・作業機の故障につながる恐れ があります。



後進作業はしないでください。

* 事故・作業機の故障につながる恐れがあ ります。

(取扱上の注意)

- バック作業はできません。作業機損傷の恐れが あります。
- 作業部を接地させた状態で旋回しないでくださ
- 作業時に旋回する場合は、作業機を持ち上げて ください。作業しながらトラクタを旋回させる と、作業機の破損につながる恐れがあります。



・ 作業機が急激に落下しないように、落下速度レ バーを調整し、ゆっくり下ろしてください。 急激に落下させると、作業機の破損につながる 恐れがあります。



うね立て播種作業のしかた

うね立て播種作業のしかたの注意事項を記載しています。 よく読み、内容を理解してから作業を行ってください。

圃場の確認

事前に圃場の状態を確認してください。

・障害物(排水溝、岩、木、ビニールシート、紐など) がないか確認し、作業前に排除するか、計画的 に作業してください。特にはじめて作業する圃 場は十分に確認してから作業してください。

うね立て播種前の事前耕耘

下記の条件で平らに一定の深さで耕耘を行うこと で、精度の良い培土を行うことができます。

条件	目安
耕耘時期	播種の直前
土塊の大きさと比率	全体の 70 %が 2 cm 以下
耕耘後の耕深	12 cm 以上

(お知らせ)

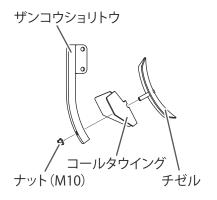
うねを高く上げたいときは、耕耘時の耕深を深 くしてください。培土時に土を上げやすくなり ます。

チゼルの取外し

1 スライドブラケットを固定しているボルト (M10)、ナットを緩め、スライドブラケッ トごと取外します。

コールタウイングの取外し

1 ザンコウショリトウに取付けられている ナット(M10)を緩め、コールタウイング とチゼルを取外します。



(取扱上の注意)

- コールタウイングを取外さないと、コールタウ イングが変形する恐れがあります。
- 2 ザンコウショリトウにチゼルを取付け、ナッ ト (M10) で締付けます。

以下の流れで調整作業を行います。

- ① 作業姿勢の調整
- ② 耕深の調整
- ③ 作業速度の調整
- ④ 条間の調整
- ⑤ うね高さの調整
- ⑥ コンプレッションスプリングの調整

作業姿勢の調整

作業姿勢の調整は以下の手順で行います。

- **1** 作業機をトラクタに装着します。
- 2 地面が水平な場所でトラクタの昇降レバー を最下げにし、作業機のタイヤを接地させ ます。
- 3 ユニットフレームが地面と水平になるよう にトップリンクを調整します。(仮調整)
- 4 作業をしながらユニットフレームと地面が 水平か確認します。
 - 水平でない場合、トップリンクの長さを調整 します。

♠警告

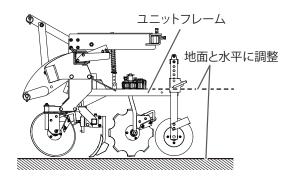


トップリンクの調整は、作業機を接地させてから行ってください。

必ず実行 * トップリンクが抜けて、作業機が落下し、 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

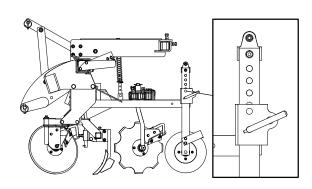
(取扱上の注意)

・ユニットフレームが地面と水平になるまで調整 を行ってください。守らない場合、機械が破損 する恐れがあります。



耕深の調整

耕深の調整はホイールゲージの上から穴が 3.5 個見 える位置に調整します。



作業速度の調整

下記の条件を満たせるように、5~6 km/h を目安 に作業を行ってください。速度一定で低速にならな いように作業を行うことで安定したうねを立てるこ とができます。

条件	目安			
播種時うね高さ	13 cm 以上			

取扱上の注意

- ・作業機の作業速度は主要諸元に記載してある速度の上限を超えないようにしてください。上限を超える速度で作業した場合、作業機が破損する恐れがあります。
- ・ 土壌に応じた作業速度、深さを選択してください。

条間の調整

⚠警告



作業時は手袋、長袖シャツを着用して ください。

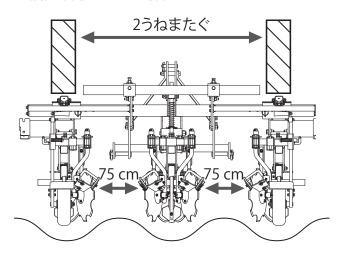
* ディスク等鋭利な部分でケガをする恐 れがあります。

作物の条間に合せてトラクタの輪距とユニットフ レームの間隔を決めます。

条間調整時には以下をを調整します。

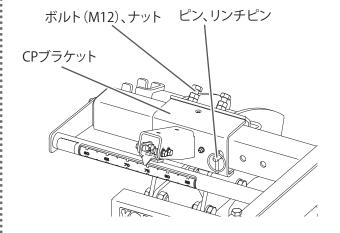
- ユニットフレームの間隔
- 前ディスク(ヒラガタディスク)の角度
- 後ディスク (ハナガタディスク) の間隔と角度
- チゼル、コールタウイングの取外し

(例) 条間 75 cm の場合



ユニットフレーム間隔

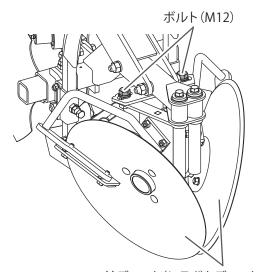
- 1 ユニットフレームのディスクとチゼルが地 面から浮いた状態にします。
- 2 CP ブラケットを固定しているボルト (M12)、 ナットを緩め、ユニットフレームを条間に 合せて調整します。



- 3 ピンを差し、リンチピンで固定します。
 - 5 cm 間隔で調整が可能です。
- 4 ボルト (M12)、ナットを締付けます。

前ディスク(ヒラガタディスク) 角度

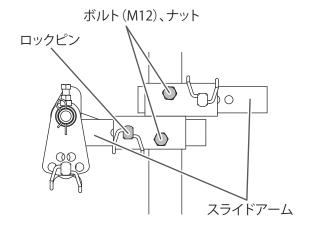
- 1 ユニットフレームのディスクとチゼルが地面から浮いた状態にします。
- 2 前ディスク(ヒラガタディスク)を固定しているボルト(M12)を緩め、前ディスク(ヒラガタディスク)を条間に合せて調整します。
- 3 ボルト (M12)、ナットを締付けます。



前ディスク(ヒラガタディスク)

後ディスク(ハナガタディスク) 間隔

1 スライドアームを固定しているボルト (M12)、ナットを緩め、ロックピンを抜き ます。



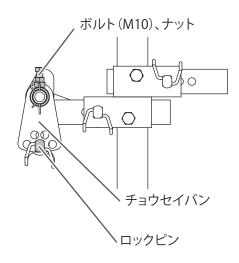
- 2 スライドアームを調整して、後ディスク(ハ ナガタディスク)を条間に合せ、ロックピ ンを差します。
- 3 ボルト (M12)、ナットを締付けます。

(お知らせ)

・中央ユニットと左右ユニットで調整が異なりますので、よく「各部標準位置」(→p.27)を確認して調整してください。

後ディスク(ハナガタディスク) 角度

チョウセイバンを固定しているボルト (M10) とナットを緩め、ロックピンを抜き ます。



- 2 チョウセイバンを回して、後ディスク(ハ ナガタディスク)を条間に合せ、ロックピ ンを差します。
- **3** ボルト(M10)、ナットを締付けます。

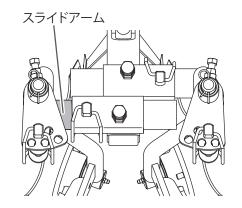
(お知らせ)

• 中央ユニットと左右ユニットで調整が異なりま すので、よく「各部標準位置」(→ p.27) を確

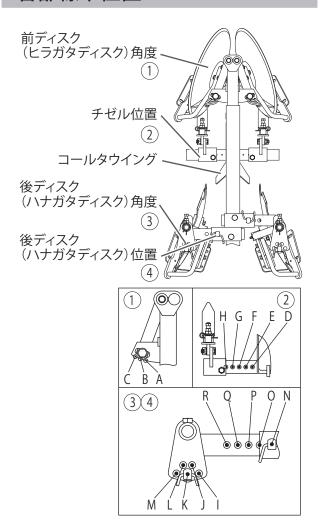
うね高さの調整

後ディスク(ハナガタディスク)の角度は別表の位 置が標準となりますが、角度を調整することで大豆 に寄せる土の量を変えることができます。

後ディスク(ハナガタディスク)の角度調整だけで 十分な土量調整を行えない場合、スライドアームの 調整も合せて行うことで調整範囲を広げることがで きます。



各部標準位置

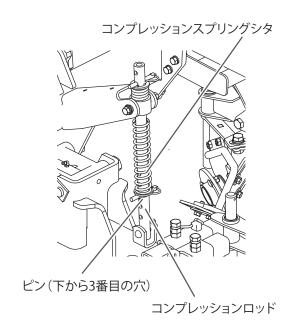


条間(cm)			60	65	70	75	80	85
,	1	前ディスク 角度	А	А	В	В	С	С
左右ユニッ	2	チゼル 位置	無し	無し	無し	無し	無し	無し
ニット	3	後ディスク 角度	L	K	K	K	K	K
	4	後ディスク 位置	R	R	Q	Р	0	N
中央ユニ	3	後ディスク 角度	L	L	L	L	L	L
ニット	4	後ディスク 位置	R	R	R	R	R	R
□.	— JI	ノタウイング	無し	無し	無し	無し	無し	無し

コンプレッションスプリングの調整

コンプレッションスプリングシタ

コンプレッションスプリングシタは、作業の衝撃を やわらげる働きをします。通常は下図のように、コ ンプレッションスプリングシタのピンを下から3番 目の穴に挿して作業してください。

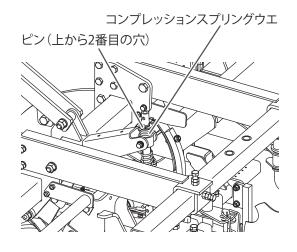


圃場に石が多いときはピンを下から1番目に挿して、スプリングをフリーにした状態で使用してください。

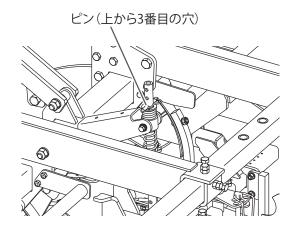
コンプレッションスプリングウエ

コンプレッションスプリングウエは、センターユ ニットの耕深が深くなりすぎたとき、耕深を抑制す るために使用します。

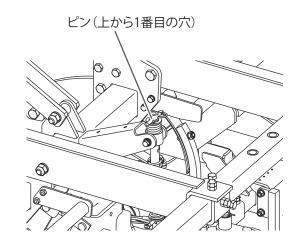
通常は下図のように、ピンを上から2番目の穴に 挿して作業してください。



センターユニットの耕深が深くなりすぎる場合は、 ピンを上から3番目の穴に挿し、耕深を浅くして ください。



センターユニットの耕深が浅い場合は、ピンを上か ら1番目の穴に挿し、耕深を深くしてください。



中耕培土作業のしかた

中耕培土作業のしかたについて記載しています。

作業前によく読み、内容を理解してから作業をしてください。

作業手順

以下の流れで調整作業を行います

- ① 作業姿勢の調整
- ② 耕深の調整
- ③ 作業速度の調整
- ④ 条間の調整
- ⑤ 培土量の調整
- ⑥ コンプレッションスプリングの調整

作業姿勢の調整

作業姿勢の調整は以下の手順で行います。

- **1** 作業機をトラクタに装着します。
- 2 地面が水平な場所でトラクタの昇降レバー を最下げにし、作業機のタイヤを接地させ ます。
- 3 ユニットフレームが地面と水平になるよう にトップリンクを調整します。(仮調整)
- 4 作業をしながらユニットフレームと地面が 水平か確認します。
 - 水平でない場合、トップリンクの長さを調整します。

<u></u> 警告

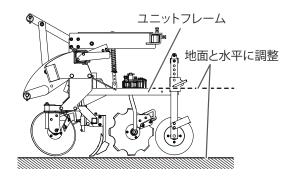


トップリンクの調整は、作業機を接地させてから行ってください。

必ず実行 * トップリンクが抜けて、作業機が落下し、 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

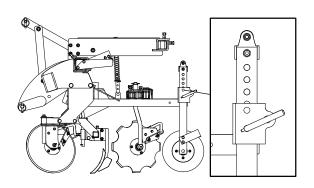
(取扱上の注意)

・ ユニットフレームが地面と水平になるまで調整 を行ってください。作業機が破損する恐れがあ ります。



耕深の調整

耕深の調整はホイールゲージの上から穴が 3.5 個見 える位置に調整します。



作業速度の調整

1回目の培土など、大豆の株が小さいときは、速度 を遅くしてで作業してください。作業速度が速すぎ ると培土量が増え、株が埋没することがあります。

(取扱上の注意)

- 本機の作業速度は主要諸元に記載してある速度 の上限を超えないようにしてください。上限を超える速度で作業した場合、作業機が破 損する恐れがあります。
- ・ 土壌に応じた作業速度、深さを選択してください。

条間の調整

企警告



作業時は、手袋、長袖シャツを着用して ください。

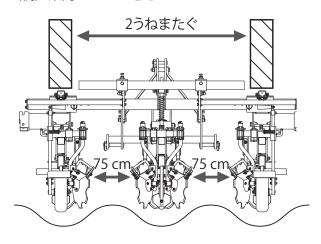
* ディスク等鋭利な部分でケガをするおそ れがあります。

作物の条間に合せてトラクタの輪距とユニットフ レームの間隔を決めます。

条間調整時には以下をを調整します。

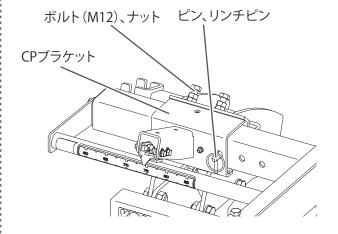
- ユニットフレームの間隔
- 前ディスク (ヒラガタディスク) の角度
- 後ディスク (ハナガタディスク) の間隔と角度
- チゼル、コールタウイングの取外し

(例) 条間 75 cm のとき



ユニットフレーム間隔

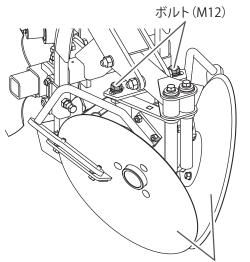
- 1 ユニットフレームのディスクとチゼルが地 面から浮いた状態にします。
- 2 CP ブラケットを固定しているボルト (M12)、 ナットを緩め、ユニットフレームを条間に 合せて調整します。



- 3 ピンを差し、リンチピンで固定します。
 - 5 cm 間隔で調整が可能です。
- 4 ボルト (M12)、ナットを締付けます。

前ディスク(ヒラガタディスク) 角度

- 1 ユニットフレームのディスクとチゼルが地面から浮いた状態にします。
- 2 前ディスク(ヒラガタディスク)を固定しているボルト(M12)、を緩め、前ディスク(ヒラガタディスク)を条間に合せて調整します。

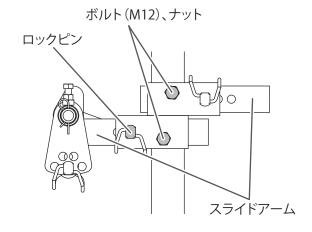


前ディスク(ヒラガタディスク)

3 ボルト (M12)、ナットを締付けます。

後ディスク(ハナガタディスク) 間隔

1 スライドアームを固定しているボルト (M12)、 ナットを緩め、ロックピンを抜きます。



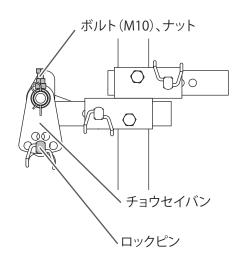
- 2 スライドアームを調整して後ディスク(ハ ナガタディスク)を条間に合せ、ロックピ ンを差します。
- 3 ボルト (M12)、ナットを締付けます。

お知らせ)

・中央ユニットと左右ユニットで調整が異なりますので、よく「各部標準位置」(→p.34)を確認して調整してください

後ディスク(ハナガタディスク) 角度

1 チョウセイバンを固定しているボルト (M10)、 ナットを緩め、ロックピンを抜きます。



- 2 チョウセイバンを回して後ディスク(ハナ ガタディスク)を条間に合せ、ロックピン を差します。
- 3 ボルト (M10)、ナットを締付けます。

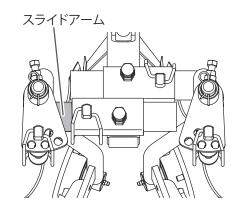
(お知らせ)

• 中央ユニットと左右ユニットで調整が異なりま すので、よく「各部標準位置」(→p.34) を確

培土量の調整

後ディスク(ハナガタディスク)の角度は別表の位 置が標準となりますが、角度を調整することで大豆 に寄せる土の量を変えることができます。

後ディスク(ハナガタディスク)の角度調整だけで 十分な土量調整を行えない場合、スライドアームの 調整も合せて行うことで調節範囲を広げることがで きます。

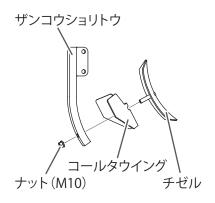


圃場が固い場合

圃場が固い場合は、チゼルを使用してください。

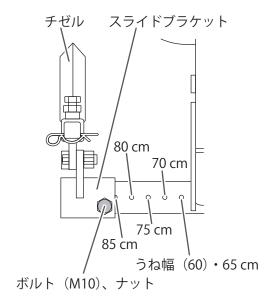
■コールタウイングの取付け

ザンコウショリトウに取付けられている ナット(M10)で、コールタウイングとチ ゼルを取付けます。



■チゼル間隔の調整

1 スライドブラケットを固定しているボルト (M10)、ナットを緩めます。



2 条間に合せてスライドブラケットを調整し ます。

3 スライドブラケットを固定しているボルト (M10)、ナットを締めます。

企警告



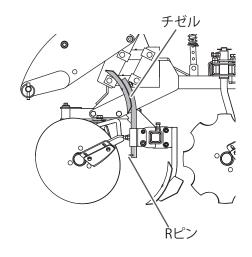
作業時は手袋、長袖シャツを着用してく ださい。

^{必ず実行} * ディスク等鋭利な部分でケガをする恐れ があります。

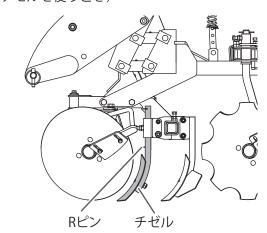
出荷時はチゼルを上向きに取付けているので、下向 きに付け換え、任意の高さで固定してください。最 下げ位置が標準深さになります。

脱落防止のため、必ずRピンを挿してください。

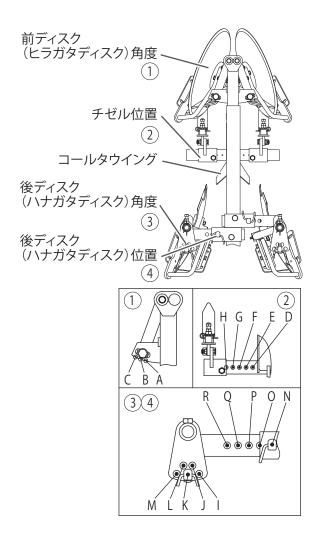
(チゼルを使わないとき)



(チゼルを使うとき)



各部標準位置



条間(cm)			60	65	70	75	80	85
	1	前ディスク 角度	А	А	В	В	С	С
全ユニ	2	チゼル 位置	D	D	Е	F	G	Н
ーット	3	後ディスク 角度	L	K	K	K	K	K
	4	後ディスク 位置	R	R	Q	Р	0	N
コールタウイング		有り	有り	有り	有り	有り	有り	

コンプレッションスプリングの調整

詳細は、「コンプレッションスプリングの調整」 (→ p.27) を参照してください。

作業機本来の性能を、十分にまた長期間にわたって発揮させるためには、定期的な保守・点検が必要です。 また、故障を未然に防ぐため、作業機の状態を常に知っておくことも大切です。

⚠ 危 険



作業機をトラクタに装着して点検を行う 場合は、トラクタのエンジンを止め、駐 車ブレーキをかけてから行ってくださ い。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



作業機を地面に降ろしてから行ってくだ

必ず実行 作業機を持ち上げた状態で点検する必要 がある場合は、トラクタの駐車ブレーキ をかけ、エンジンを停止して油圧ロック を行い、台などを作業機の下に置き、作 業機が落下しないようにしてから行って ください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

♠ 警告



作業機の点検を行うときは以下のことを 確認してから作業してください。

- 必ず実行・エンジンを停止し、キーを抜く
 - 油圧ロックを行う
 - * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



点検のために外したカバー類は、必ず元 通りに取付けてください。

必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



作業前後に点検を行い、次の場合は新品 と交換してください。

- 必ず実行・スクレーパ、チゼルが変形・破損した
 - ディスク径が330 mm 以下に摩耗した
 - * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注 意



平坦で十分な広さがあり、地盤のしっか りした場所で行ってください。

必ず実行 * ケガにつながる恐れがあります。



作業機単体で点検を行う場合は、キャス タスタンドのロックを行ってください。

必ず実行 * ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注 意



ボルト、ナットを緩めたり、締付ける場 合は、工具が確実に入った状態で作業し てください。

* ケガにつながる恐れがあります。



作業時は手袋、長袖シャツを着用してく ださい。

必ず実行 * ディスク等鋭利な部分でケガをする恐れ があります。

保守・点検の準備

トラクタに装着しての場合

- 1 トラクタを平坦な広い場所に置きます。
- エンジンを止め、駐車ブレーキをかけます。
- 3 作業機を地面に下ろしてから行います。
 - 作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある。 場合は、油圧ロックを行ってください。
- 4 台などを作業機の下に置き、作業機が落下 しないようにします。

作業機単体での場合

- 1 作業機を平坦な広い場所に置きます。
- キャスタスタンドのロックを行います。

保守・点検一覧表

					周期				
No.	作業項目	50 時間 使用後	作業前	作業後	シーズンはじめ	150 時間 でと または シーズン 終了後	施時 	1年 または 300時間 (どちらか 早い方)	参照 ページ
1	各部のボルト・ナットの点検		0	0					p.38
2	チゼル・ディスク取付けボルトの点検		0	0					p.38
3	グリスアップ・塗布・注油								
	(a)ディスクボス	0				0			p.39
	(b) ヘイコウリンク	0				0			p.39
	(c)ホイールゲージ部					0			p.39
	(d) マエディスクアーム					0			p.40
	(e) リヤーディスクアーム					0			p.40
4	チゼルシャーボルトの点検		0	0					p.37
5	ディスクの点検・交換		0	0					p.41
6	チゼルの点検・交換		0	0					p.37
7	スクレーパの点検・交換		0	0					p.38
8	警告表示ラベルの点検					0			p.42
9	オイルシールの点検・交換					0			p.41
10	ボアプラグの点検・交換					0			p.41
11	無塗装部へのサビ止め						0		p.42
12	消耗品の早期交換					0	0		p.42

作業内容

シャーボルトの交換

取扱上の注意

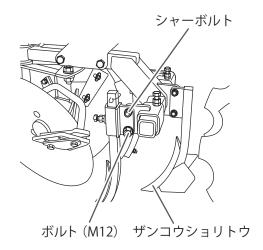
・シャーボルトは KOBASHI 純正ボルトを使用してください。作業機が破損する恐れがあります。

圃場の寝石などにチゼルがあたったとき、過負荷で 作業機が破損しないようにシャーボルトを設置して います。

シャーボルトが切断したときは、必ず下記規格のボルトを使用してください。シャーボルト交換時にはボルト(M12)も増締めしてください。

規	 格	コード
シャーボルト	M8 × 30 P1.25 全ネジ 7T	9021053
ナット	M8 P1.25 S ワッシャ付	9150358

付属部品としてシャーボルト、ナットが各 10 個入っています。



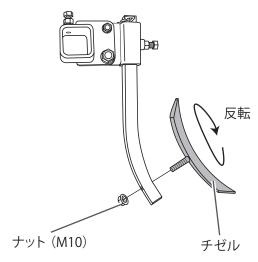
(取扱上の注意)

- R ピンを抜いて使用しないでください。
- チゼルの最大深さは R ピンで規制しています。 R ピンを抜き、チゼルを規定以上の深さにする と、チゼルの脱落や破損につながります。

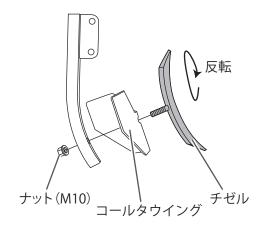
チゼルの交換

チゼルの刃が摩耗したらナット(M10)を外し、上下を反転させて、新しい刃を使用してください。 反対の刃も摩耗したら、チゼルを新しいものと交換 してください。

チゼル(左右)



チゼル (中央)



スクレーパの調整、交換

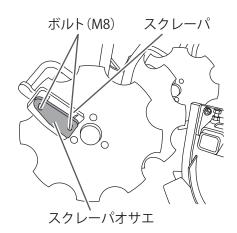
スクレーパが摩耗して、ディスク表面とスクレーパ の間に隙間が空いてきたら、スクレーパを調整して ください。

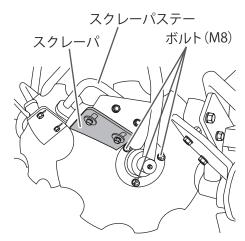
調整は、ボルト(M8)を緩め、スクレーパをディ スクに軽くあたるまでスライドさせて、ボルトを締 めてください。

スクレーパの調整をしてもディスクにあたらない場 合は、スクレーパの寿命です。新しいものと交換し てください。

(取扱上の注意)

- ボルトを締めすぎないでください。スクレーパ 変形の原因となります。
- ワラ、草が多く、スクレーパに詰まりディスク が回転しない場合には、スクレーパを取外して ください。スクレーパステーが曲がり、ディス クが偏摩耗します。
- 作業終了ごとにディスクに付着した土を掃除し てください。そのままにおくと土が固まり、ス クレーパステーやスクレーパの変形の原因につ ながります。

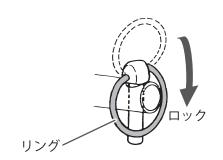




各部のボルト・ナットの点検

以下のことを確認してください。

- 各部のボルト・ナット類に緩みはないか、増締 めしながら確認
- ピン類はすべてそろっているか
- リンチピンのリングが確実にロックされている



グリスアップ・塗布・注油

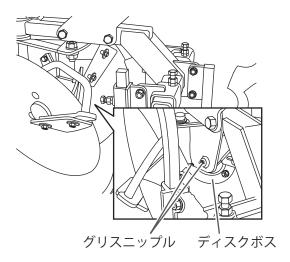
取扱上の注意

グリスはエピノックグリース AP(N) 2 (ENEOS (株)) または同等品(リチウムグリース)を使用してください。

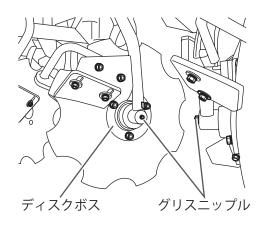
■ディスクボス

<毎作業前>

- ディスクの裏側のグリスニップルからグリス アップしてください。グリスはオイルシールの リップからきれいなグリスが出てくるまで行っ てください。(グリス量: 20 ml)
- ・ヒラガタディスク(4か所)



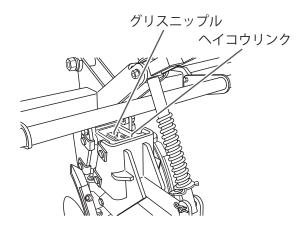
ハナガタディスク(4か所)



■ヘイコウリンク

<毎作業前>

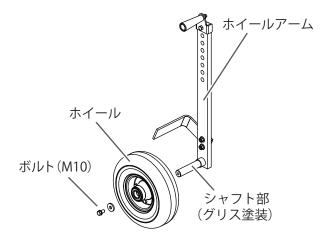
上下のヘイコウリンクのグリスニップルからグリスアップしてください。グリスはヘイコウリンクの端からグリスが出てくるまで行ってください。(2か所)



■ホイールゲージ

<シーズン終了時>

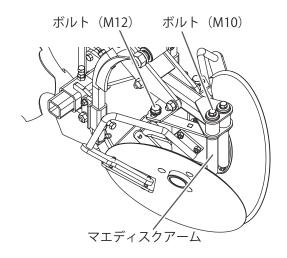
- 1 ホイールを締結しているボルト(M10)を 緩めます。
- 2 ホイールアームからホイールを外し、ホイールアームのシャフト部へグリスを塗布します。

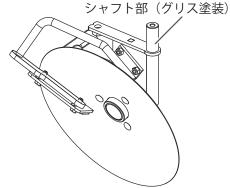


■マエディスクアーム

<シーズン終了時>

- **1** マエディスクアームを締結しているボルト (M12、M10) を外し、マエディスクアーム を外します。
- 2 シャフト部にグリスを塗布します。

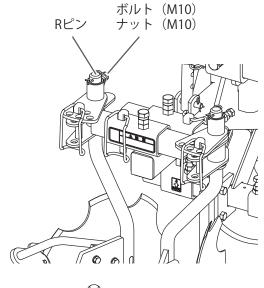


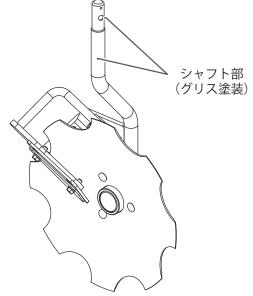


■リヤーディスクアーム

<シーズン終了時>

リヤーディスクアームを固定しているナット (M10) とボルト (M10) を緩め、R ピンを外す。 リヤーディスクアームを作業機下方向へ抜き、 シャフト部にグリスを塗布してください。

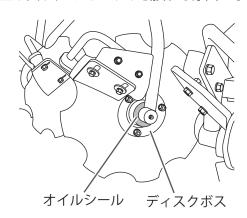


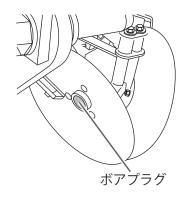


オイルシールの組替え

整備などの目的でディスクボスを分解する場合は、新しいオイルシールと交換してください。

新しいオイルシールに交換しない場合、グリス漏れや土が入り、ベアリングが破損する原因になります。

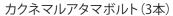


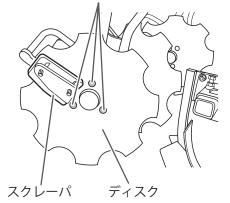


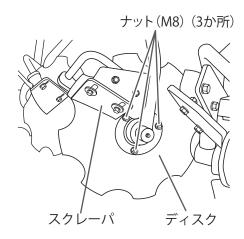
ディスクの交換

(取扱上の注意)

- ・ボルトはしっかりと締付けてください。新しく 交換した場合は、緩みやすいので作業1時間で 増締めをしてください。
- ディスクボス裏側のナット (M8) 3 か所を緩め、 カクネマルアタマボルト 3 本とディスクを外し ます。
- 新しいディスクを取付ける際は、必ずカクネマルアタマボルトをディスク側から差し込みナットを締めてください。







ディスク交換後、スクレーパとの隙間を再調整して ください。

(「警告表示ラベルと機番プレート」(→p.11))

作業機の水洗い

作業後には、作業機を水洗いし、ゴミや汚れを取除 きます。水洗いが終了後、水分を拭き取ってくださ い。

(取扱上の注意)

- 作業終了ごとにディスクの土を落としてくださ い。スクレーパが破損する恐れがあります。
- 高圧洗車機を使って水洗いする場合は、十分注 意してください。
- 高圧洗車機の使用方法を誤ると、人をケガさせ たり、作業機を破損・損傷・故障させたりする ことがあります。高圧洗車機の『取扱説明書』 やラベルに従って、正しく使用してください。

⚠ 注 意



高圧洗車機で水洗いする場合

作業機を損傷させないように洗車ノズル 必ず実行 は拡散にし、2 m 以上離して洗車してく ださい。

> * 直射や不適切に近距離から洗車すると作 業機の破損・損傷・故障や事故につなが る恐れがあります。

例)

- シール・ラベルの剥がれ
- ・ 樹脂類 (カバーなど) の破損
- 塗装・メッキ皮膜の剥がれ



無塗装部へのサビ止め

無塗装部へは、サビ止めのためのグリスを塗布して ください。

取扱上の注意

• グリスはエピノックグリース AP(N) 2 (ENEOS (株)) または同等品(リチウムグリース)を使 用してください。

警告表示ラベルの点検

「警告表示ラベルと機番プレート」(→ p.11) に 従って、警告表示ラベルを点検してください。

- 損傷や破損していないか
- 汚れていないか
- 剥がれていないか

異常が見つかった場合、新しいものと交換してくだ さい。

消耗品の早期交換

「消耗品一覧」(→ p.43) に記載の消耗品を点検し てください。

必要に応じて、新しいものと交換してください。 早期の交換をお勧めします。

消耗品一覧

消耗部品は早めの交換をお勧めします。

当社では、お客様にご迷惑がかからないよう消耗部品を用意しておりますが、シーズンによっては特定の部品 が品薄になる場合があります。シーズン到来前の準備として、消耗部品の事前確認をして、早めの交換をお勧 めします。

	部品名	スクレーパウチ	部品コード	6350029	1 台分個数	8
	備考					
	部品名	スクレーパソト	部品コード	6350031	1 台分個数	8
	備考					
	部品名	チゼル	部品コード	6350036	1 台分個数	4
	備考					
,	部品名	ヒラガタディスク	部品コード	6350024	1 台分個数	4
\$ 1	備考					
	部品名	ハナガタディスク	部品コード	6350025	1 台分個数	4
• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	備考					
	部品名	コガタボルト (シャーボルト)	部品コード	9021053	1 台分個数	6
	備考	シャーボルトは必ずコバシ純正品を	使用してくだ	きさい。		
	部品名	コガタナット (S ワッシャツキ)	部品コード	9150358	1 台分個数	6
	備考	ナットは必ずコバシ純正品を使用し	てください。			

格納・運搬・保管

格納・運搬・保管するときは、作業機をきれいに清掃し、塗装できない箇所はサビ止めのためにグリスを塗っ てください。

⚠注意



キャスタスタンドで作業機を移動する場 合は、平坦な広い場所で周囲に人がいな いことを確認してください。

* 作業機が転倒し、事故・ケガにつながる 恐れがあります。



キャスタおよびキャスタスタンドが損傷 している場合は、直ちに修理・交換を行っ _{必ず実行} てください。

> * 作業機が転倒し、事故・ケガにつながる 恐れがあります。

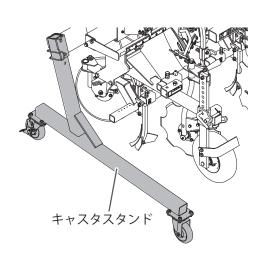


格納後は、みだりに子供などが触れない ような処置をしてください。

必ず実行 *事故・ケガにつながる恐れがあります。

(取扱上の注意)

キャスタスタンドは、圃場内での使用や、圃場 内への放置はしないでください。泥の侵入によ り回動しにくくなることがあります。また、泥 が侵入して回動しにくくなった場合は、よく洗 浄してグリスを塗布してください。

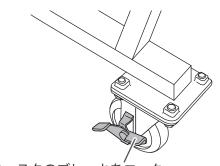


保管・格納するときは、作業機をきれいに清掃し、 塗装できない箇所はサビ止めのためのグリスを塗っ てください。(「作業機の水洗い」(→ p.42)、「無 塗装部へのサビ止め」(→ p.42))

保管・格納場所は、雨や風があたらない、平らで硬 いところを選んでください。

作業手順

- 平坦で地盤が強い屋内に作業機を保管しま す。
- 2 移動が完了したら、キャスタのブレーキを ロックします。



キャスタのブレーキをロック

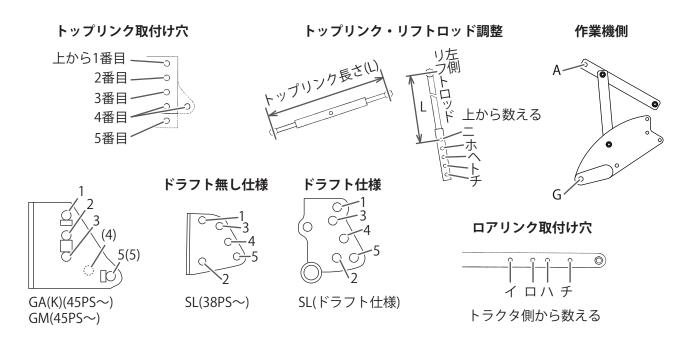
各型式の主要諸元について記載しています。

型式		HDR200		
馬	函動方式	トラクタ牽引方式		
機体寸法	全長(mm)	1310		
() はキャスタ	全幅 (mm)	1895 ~ 2350		
スタンド 装着時	全高(mm)	1100		
機体	質量(kg)	275 (304)		
適応トラ	クタ(kW{PS})	27.2 ~ 44.1{37 ~ 60}		
装着	装置の種類	標準 3P 直装		
標準	耕幅(cm)	25(畝幅 60cm 時)~ 44(畝幅 85cm 時)		
標準	耕高(cm)	3 ∼ 5		
	(ヒラガタディスク) 関節範囲 (°)	片側 15 ~ 25		
	(ハナガタディスク) 関節範囲 (°)	片側 5 ~ 35		
/	ディスク枚数	左右ユニット2枚ずつ、中央ユニット4枚 計8枚		
イスデ	ディスク形状	前列:平形、 後列:花形		
ス ク ディス	スク外径(cm)	35		
適応	畝幅(cm)	60 ~ 85		
耕沒		後ゲージ輪		
かって採舗時	作業速度(km/h)	5 ~ 6		
畝立て播種時	作業能率(分 /10a)	10(畝幅 85 cm 時)~14(畝幅 60 cm 時)(作業速度 5 km/h 時)		
中耕培土時	作業速度(km/h)	4~6		
十 <i>村</i> 村石工吋	作業能率(分 /10a)	12(畝幅 85 cm 時)~ 17(畝幅 60 cm 時)(作業速度 4 km/h 時)		

[※] この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

トラクタ別装着表

この表はあくまで装着表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で 使用してください。また、この作業機のトラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が載っていない場合は、お 買い求めの販売店へお問い合せください。



■株式会社クボタ

	トラクタ部の調整				
トラクタ型式	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ (mm)	備考
SL380·410·450	5	1	^	700	
SL380PC·410PC·450PC	5	1	^	690	
SL480·540·600	5	1	ホ	720	
SL480PC • 540PC • 600PC	5	1	ホ	700	

■ヤンマーホールディングス株式会社

	トラクタ部の調整				
トラクタ型式	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ (mm)	備考
YT338R·345R·352R·357R	3	1	赤	650	
YT338RD·345RD·357RD	3	1	ホ	590	

■井関農機株式会社

	トラクタ部の調整				
トラクタ型式	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ (mm)	備考
NT (A) 435·465·505·555·605	4	1	ホ	670	
NT (A) 435C·465C·505C·555C NT (A) 605C	4	1	ホ	650	

■三菱マヒンドラ農機株式会社

	トラクタ部の調整				
トラクタ型式	トップ リンク 取付け穴	ロア リンク 取付け穴	リフト ロッド 取付け穴	トップ リンク 長さ (mm)	備考
GA452·502·552	3	1	=	670	
GAK452·502·552	3	1	ホ	670	
GM452·502·552	3	1	=	610	

フロントウエイト装着表

このフロントウエイト装着表は、作業性能を発揮するための必要ウエイト量を示します。

作業機を装着して道路走行する際は、表示のウエイト以上に必要な場合があるため注意してください。

作業機を装着して道路走行する場合のウエイト量は下記ホームページより確認してください。

一般社団法人 日本農業機械工業会ホームページアドレス http://www.jfmma.or.jp/

下表には作業性能に必要なフロントウエイト枚数を示しています。

また、"-"はフロントウエイト不要、グレー部は適用外を示します。

トラクタメーカーによってはバランス基準が異なります。必ず下記の適正フロントウエイト重量を搭載してく

トラクタ型式によっては、オプションウエイト台が必要になります。詳しくはお買い求めの販売店へお問い合 せください。

※播種機付とはアグリテクノサーチ(株)製播種機「HUD-2」に種を入れて装着した状態を示します。

■株式会社クボタ

	トラクタ型式	中耕・培土 播種機無	播種機付(種あり)
	380.410.450	-	-
SL	480.540.600	-	-
3L	380PC·410PC·450PC	-	-
	480PC·540PC·600PC	-	-

■ ヤンマーホールディングス株式会社

	トラクタ型式	中耕・培土 播種機無	播種機付(種あり)
	338R·345R	-	30 kgx2 (3)
YT	352R·357R -		30 kgx0 (1)
	338RD · 345RD	-	30 kgx5 (5)
	357RD	-	30 kgx2 (3)

■井関農機株式会社

	トラクタ型式	中耕・培土 播種機無	播種機付(種あり)
NTA NT	435	-	-
	465 • 505 • 555 • 605	-	-
	435C·465C	-	-
	505C·555C·605C	-	-

■三菱マヒンドラ農機株式会社

	トラクタ型式	中耕・培土 播種機無	播種機付(種あり)
GM	452.502.552	-	-
GA	452.502.552	-	-
GAK	452.502.552	-	30 kgx1 (1)

異常診断一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因と なります。

再使用せず、直ちに対策を行ってください。

本体各部	症 状	原 因	対策
ディスクボス	異音	過負荷によるベアリングの損傷	ベアリング交換
ヘイコウ リンク		グリス切れによる焼き付き	グリス注入
ディスクボス	ディスクの 回転不良	グリス切れによるベアリングの損傷	グリス注入・ベアリング交 換
		過負荷によるベアリングの損傷	ベアリング交換
スクレ―バ		スクレーパをディスクに押し付けすぎてい る	スクレーパ調整
チゼル		シャーボルトが飛んでディスクと干渉して いる	シャーボルトの交換
ヘイコウ リンク	ユニット フレームの 動きが硬い	グリス切れによる焼き付き	グリス注入
ディスクボス	ディスクボス 内部の水、 土の侵入	オイルシール、ボアプラグの劣化、損傷	オイルシール、ボアプラグ、 ベアリング交換 グリス注入
ディスク	土付着	スクレーパの摩耗	スクレーパ調整、交換
	耕深が浅い	チゼル摩耗	チゼル交換
チゼル		チゼル位置を調整していない	うね幅に合せたチゼル位置 の調整
作業姿勢		作業機が前傾	トップリンク調整
ディスク		ディスクの摩耗	ディスクの交換
車速		車速が遅い	車速を上げる
ハナガタ ディスク	うねが小さい	ハナガタディスク角度が小さい	ハナガタディスク角度 の調整
ヒラガタ ディスク		ヒラガタディスク角度が小さい	ヒラガタディスク角度 の調整
ホイール ゲージ		ホイールゲージの耕深設定が浅い	ホイールゲージの調整
車速		車速が速い	車速を下げる
ハナガタ ディスク	うねが大き すぎる	ハナガタディスク角度が大きい	ハナガタディスク角度 の調整
ヒラガタ ディスク		ヒラガタディスク角度が大きい	ヒラガタディスク角度 の調整
ホイール ゲージ		ホイールゲージの耕深設定が深い	ホイールゲージの調整

本体各部	症 状	原 因	対策
ヒラガタ ディスク	残耕	ヒラガタディスク角度が小さい	ヒラガタディスク角度 の調整
ハナガタ ディスク		ハナガタディスク角度が小さい	ハナガタディスク角度 の調整
チゼル		チゼルの摩耗	チゼルの交換
		チゼルのウイングの破損	ウイングの交換
マエディスク アーム リヤー ディスク アーム	支柱の変形	ユニットフレームが地面と水平になってい ない	トップリンク調整

廃棄について

廃棄物などの不適切な処理は、法律により処罰され ることがあります。保守時に発生した廃棄物の処置 は、適切な処理をしてください。

注意事項

この作業機やその保守時に発生する廃棄物の処分 は、国、または地方行政の法令の規制対象となるも のがあります。

廃棄する際は、国または地方行政の法令に従い産業 廃棄物処理業者に依頼するなど適切な処理をしてく ださい。

注意



この作業機やその保守時に発生した廃棄 物を廃棄するときは、国または地方行政 の法令に従ってください。

必ず実行

* 間違った廃棄を行うと、作業機からオイル が漏れ、川・海に流れだし汚染することが あります。

用語解説

ここでは用語について解説します。

(お知らせ)

• この取扱説明書に記載していない用語もありま す。

3点リンク

トラクタに作業機を装着するための3点で支持を 行うリンク

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

チェックチェン

トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制す るチェン

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の 上部を吊り下げているリンク

揚 力

トラクタが作業機を上昇させるための力

リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロアリンクと連結 しているロッド

ロアリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下 部を吊り下げているリンクで、左右1本ずつある

メインフレーム

3連のユニットフレームが付く、角パイプのフレー Δ

CP ブラケット

作業条間調整を行うためのブラケット 左右のユニットフレームを取付けている部品で条 間調整はこの部品をスライドして行う

ユニットフレーム

前後ディスク、チゼル、ゲージ輪が備わったフ レーム

ヘイコウリンクを介して上下に動くセンター部と ホイールゲージを取付けた固定式のものがある

ヘイコウリンク

メインフレームとユニットフレームを取付ける上 下に回動する部品

ホイールゲージ

両側のユニットフレームに付く車輪でディスクに かかる負荷を分散させる

ヒラガタディスク

中耕ディスクの前列に付く円盤

ハナガタディスク

中耕ディスクの後列に付く切欠きのある円盤

ディスクボス

ディスクを取付ける部品で中にベアリングが組み 込まれている

スクレーパ

ディスクに付着した土を掻き落とす部品

チゼル

ヒラガタディスクとハナガタディスクの間にある 土を膨軟にするための爪

シャーボルト

チゼルに石などが引っかかった際に、切れること で本体の破損を防ぐボルト

MEMO

MEMO

 -
 -
 _
 -
 -
 -
 -
 _
 _
 _
 _
_
_
 -



小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684 インターネットでも弊社の情報がご覧いただけます。 http://www.kobashiindustries.com

■北海道営業所 〒071-1248 北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番 ☎(0166) 49-0070 ■東北営業所 〒024-0004 岩手県北上市村崎野13地割35-1 ☎(0197) 71-1160 ■関東営業所 〒321-3325 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1 ☎(028) 687-1600 ☎(0186) 250-1833

■岡山営業所 〒701-0165 岡山市北区大内田727 ☎ (086) 250-1833 ■九州営業所 〒861-2236 熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F ☎ (096) 286-0202